

# 中区メセナ活動の推進に向けて

■佐藤守利

## はじめに

中区は、横浜開港以来の歴史により、異国情緒あふれ、ファッション性の高い様々な魅力をもった街として高い評価を得ている。

また一方、昼夜間人口指数は二二〇を超え、本市の中でもトップであり、中区における行政の諸活動は、企業やそこに勤務する社員の協力をぬきにしては、十分に推進できないと言っても過言ではない。これは文化活動・地域貢献活動の分野においてもしかりである。

企業自らが文化活動を行い、またはこれを支援することは、企業メセナと呼ばれ、幾分使い古された言葉となっている。言葉の認知自体はバブル経済華や

かなりし頃で、その後政治的にも経済的にもかなり厳しい状況となっているにもかかわらず、

これら外部環境に左右されることなくメセナや地域貢献活動を続けている企業は依然として多い。

これは、これらの企業がこうした活動を、単に企業のイメージアップによる現業への寄与と考えているばかりではなく、法人市民としてのきちんとした理念に基づいて行っているところが多いためだと考える。

中区では、今後の区における文化活動の振興に資するため、平成六年度に区内企業の活動実態を把握する「企業の文化活動・社会貢献活動に関する調査」を実施した。

## 調査の概要

送付総数二百四十六社（従業員五十人以上の区内の企業、過去に中区役所と係わりのあった企業等）で、回答は八十二社（回収率三三・三％）。

企業の文化活動、社会貢献については、四十三社（五二・四％）が、必要性を認めている。規模別に見ると、マス企業（全国的規模の大企業）の方が地域企業よりも必要と答えた割合が高い（表一）。

しかしながらマス企業の中には、横浜以外での実績を述べるに止まる企業も多く、地元での活動が活発に行われている状況とは言えない。一方、地域企業は、マス企業の関心を下回る

### 企業が過去1年間に実施協力した事業

- ・子供のため講演会の実施
- ・帆船模型展、中島千波展示、木村利三郎展示等の実施
- ・横浜どんたくへの協力、みなと祭への協力
- ・横浜美術館クラシックライブへの協賛
- ・ねつけ工芸振興への寄付
- ・ギャラリーの設置
- ・地域の祭礼への参加
- ・町内美化運動の実施

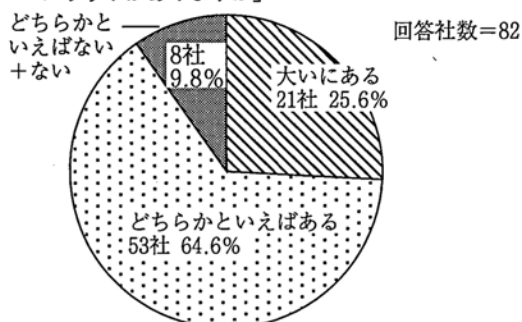
ものの、地域での活動に、より具体的である。

企業にとってのメリットの有無を聞いた質問では、文化活動・社会貢献が、企業の利益に全く

表一 「企業が行う文化活動、社会貢献は必要であると思いますか」に「たいへん必要である」と答えた割合

マス企業	28社/48社=58.3%
地域企業	15社/34社=44.1%
合計	43社/82社=52.4%

図一 「企業が行う文化活動、社会貢献は企業にとってメリットがありますか」



無縁のものだという認識がまだ  
まだ多く見受けられる(図-1)。  
「どんなメリットがあると思  
いますか」との質問には、「会  
社のイメージ・評価の向上」六  
十二社、「地域との関係円滑化」  
五十九社がメリットの上位を占  
める(図-2)。

地域企業はマス企業に比較し  
て関心が低いように見えるが、  
はつきりとした意思表示をする  
のは、地域企業である。既に実  
践的な事業、地域貢献活動を地  
道に実行している企業も少なく  
ない。

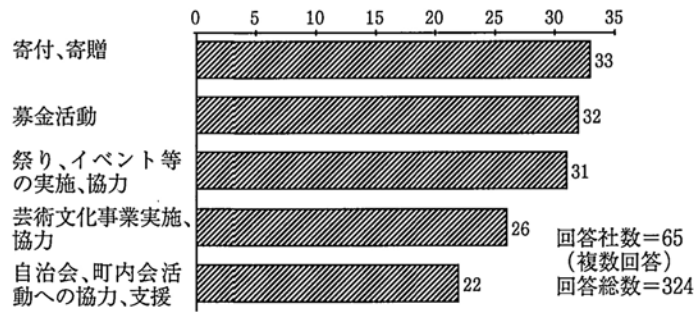
ちなみにS社では、金沢区  
工場に、小型ながら音楽ホール  
を持ち、また横浜ジャズ協会で  
も重要な役割を果たしている。  
またM社では、横浜の歴史的  
遺産でもあるガス灯の普及活動  
に力を入れたり、二十数年にわ  
たって地域の福祉施設に寄付活  
動を行っている。

ただ、いかにせん具体的活動  
の回答項目ベスト五を見ても、  
企業が自主的に活動を行うより  
は、他の支援、協力といった活  
動の方が多いのが実情である。  
まだ具体的な活性期には入っ  
ていないものの、現在、文化・  
地域貢献活動を行っているのは  
四十一社(五〇・〇%)と半数

を占め(図-3)、現況は「よ  
き前段」ととらえることができ  
るのではないかと。

メセナ(文化支援)とは何か  
の理解が十分でないところもあ

具体的に行っている(いた)活動の回答項目ベスト5



り、また、他の企業で何を行っ  
ているのかを知りたい企業もあ  
る。またアンケートの中で、今  
後メセナ組織の設立を望む声も  
あった。積極的な企業の参加、  
理解を促す懇談会、セミナーや  
情報交換会の開催が望まれる。

### 連絡組織設立に向けて

平成六年度の調査結果では、  
今回アンケートに回答した八十  
二社のうち、ほとんどの八十社  
が今後の自治体の文化活動への  
協力を表明している。即ち行政  
としては、これだけの理解者を  
もっているという前提に立つて  
考えていきたいと思う。ただ、  
総論賛成でも各論になると、現  
在の経済状態では、その余裕は  
ないとはつきり回答する企業も  
ある。

平成七年度はこれらの状況を  
踏まえ、法人市民である企業と  
行政がどのような連携がとれ、  
またこれによりどのようなメセ  
ナ活動の相乗効果が起こるか、  
「中区メセナ活動推進懇話会  
(仮称)」設立(平成八年度予定)  
をターゲットに据えた諸準備を  
行っている。

具体的には、六年度調査で積  
極的な回答のあった企業、中堅  
企業で現在活発にメセナ活動を  
行っている企業、関連行政機関・  
団体などを訪問調査し、文化・  
地域貢献を切り口とした異業種  
交流組織の設立を目指している。  
これにより、メセナ活動に関  
する啓発、相互の情報交換、現

在、企業が個々に行っている文  
化・地域貢献活動への相互協力、  
そして最終的に、懇話会として  
地域振興のために実りある事業  
をつくりだしていくことが検討  
課題である。  
△中区地域振興課生涯学習支援  
係長▽

図-2 「どんなメリットがあると思いますか」

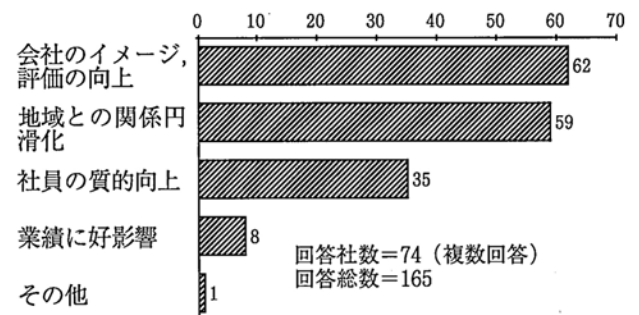


図-3 「企業として文化活動、社会貢献活動を行っていますか」

